

学校 教育 目標	「わくわく トライ 大口台」			
	・自ら進んで学び続ける子	【知】		
	・相手を思いやり、自分を大切にできる子	【徳】		
	・心身ともに健康でたくましく生きる子	【体】		
	・人やまちとのつながりを大切にし、ともに未来をつくる子	【公・開】		
学校 概要	創立 67 周年	学校長 平原 智美	副校長 川島 和祐	2 学期制 一般学級：12 個別支援学級：2
	児童生徒数： 333 人	主な関係校： 神奈川中学校・白幡小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	神奈川中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p style="text-align: center;">＜ 課題解決力＞</p> <p>＜ 他者を尊重する態度と自己肯定感を身に付ける＞</p> <p style="text-align: center;">＜ コミュニケーション力＞</p>	神奈川中学校 白幡小学校 大口台小学校	<p style="text-align: center;">たくましく社会を生き抜いていく子ども</p> <p>目指す資質・能力を基盤に、学習への積極的な参加、適切な言語表現、確実な知識・技能の定着を図る。また、礼儀や規範意識を身につけ、自他へ思いやり、やさしさを行動に表せるようにする。さらに、地域に暮らす者として自覚と責任のある行動と感謝の気持ちをもてるようにする。</p> <p>○課題解決能力 ○自尊心感情 ○コミュニケーション力</p>

中期 取組 目標	<p>○子ども一人ひとりが対話的、主体的で深い学びが実現できる教育活動を充実させ、子どもの学ぶ力、生きる力の向上を図ります。</p> <p>・1年目はタブレット端末を活用して、子どもが意欲的に取り組み、学習の楽しさが実感できる授業づくりを推進します。</p> <p>・2年目は 望ましい人間関係のもと、人とのコミュニケーションを大切にして、伝え合う力を育てます。</p> <p>・3年目は対話を大切にして、自分の考えを深めることができるようになります。</p> <p>○ 継続的、計画的に体力向上の取組、健康教育の実践を図ります。</p> <p>・3年間を通して、体力づくりの時間を確保することで、心身ともに健康な生活が送れるようになります。</p> <p>○人やまちのつながりを意識し、豊かな体験を通じて、まちを愛する心を育てます。</p> <p>・3年間を通して、一人ひとりが他者を尊重する態度と自己肯定感をもち、安心して、楽しい学校生活が送れるようになります。</p>
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①問題を自分事としてとらえ、主体的に問題解決する学習方法の工夫。②友達の意見を取り入れ、自分の考えと比較しよりよい考え方へと発展させられるように支援する。③ICT機器の検索機能や、思考ツール等のアプリケーションを活用し、自分の考えをまとめたり課題点と改善方法を発見したりし、深い学びに繋げる工夫。
担当	学習指導部	
徳	道徳教育	①道徳の授業公開を全学級で行う。②わくわくトライ活動では、ペア学年による活動を取り入れ、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。③地域や商店街、盲特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができることをしていこうとする心を育てる。
担当	道徳部	
体	健康教育	① 外遊びを推奨していくことで、体力向上、運動の習慣化を図る。 ② 運動委員会と連携して密を避けた運動を紹介し実践することで、体力向上、運動の習慣化を図る。 ③ R-PDCAサイクルに基く課題と成果をもとに、子どもにとって必要感のある取組を、特別学校保健委員会で設定し運営する。
担当	体育部	
公 開	地域学校 協働活動	①学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へとつなげる。②学校運営協議会による評価、アドバイスをもとに、新しい生活様式での学校の現状と課題について、学校、保護者、地域が協働して教育活動を進める。
担当	教務部	
いじめへの対応		①児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実に挙げる。②いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。③人権の立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①5年以下の教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。②学校運営会議を月1回開催し、学校運営を組織的に挙げる。③グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。
担当	教務部・メンターチーム	
児童指導		①児童の実態に応じて、Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。②携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。
担当	児童指導部	
特別支援教育		①特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し教職員の共通理解を図る。②適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。③校内研修で教職員の特別支援教育への理解を深める。④学習に遅れがある児童に特別支援教室によるきめ細やかな指導を行う。
担当	児童指導・特別支援委員会	
自分づくり教育		①「総合的な学習の時間」を中心に、地域と関わりながら学ぶ機会を設定し、他者とコミュニケーションをとりながら学びを深める機会を増やす。また、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。③年間を通して異学年交流を適切に設け、他者とのかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。
担当	総合	
安全教育		①年間の防犯・防災訓練計画を見直し、校内の防犯・防災教育の一層の充実を図る。 ②災害や事件・事故発生時の対応について教員の共通理解を図るとともに、児童の防災・防犯意識を高める。
担当	安全部	